

講義年月日	2004年3月10日 (水)
講演者	土屋 俊氏 (千葉大学文学部教授)
テーマ	大学図書館の将来 - 国立大学図書館長の経験から -
講義内容	別紙レジュメ参照
感想	<p>講義は、土屋氏ご自身が千葉大学附属図書館長を務められたご経験から、大学教員が図書館長を務める意義についての分析から始まった。ついで、電子ジャーナルの普及に伴う国立大学図書館の対応策、特に「国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース」の成果について、具体的な説明があった。さらに、電子ジャーナルと図書館の関わりについて、著作権の側面から解説され、最後に、これからの大学図書館の役割 課題について述べられた。</p> <p>土屋氏が強調されたのは、資料媒体が紙から電子へ、それに伴い著作権関係が法律から契約へと変わる中で、大学図書館はどのような役割を果たすべきか、これからの大学教育の中で、図書館はより積極的な役割を果たしてほしい、という2点である。</p> <p>については、これまで業者まかせであった「契約」に、図書館が主体的に関与する必要性に言及され、更に、その「契約」を誰が担当するのかが、これからの図書館の大きな問題であると指摘された。については、図書館利用状況の分析データ等も交え、これからの大学教育の変化(特に、社会への直接的還元)その中で大学図書館が果たすべき役割についての期待を述べられた。</p> <p>大学教育は改革を迫られている。大学図書館もまた変化に対応していく必要に迫られている。さまざまな社会変化 要望に対応しうる大学図書館であり続けるために、その構成員である図書館員に、より一層の努力が求められていると感じた。</p>
配付物	「大学図書館の将来 - 国立大学図書館長の経験から - 」